



森本眞佐男先生を偲ぶ

古屋 繁

平成25年7月6日、本学会名誉会員の森本眞佐男先生が95年の生涯を閉じられました。葬儀は、ご本人の強い遺志により、親族のみ行われ、我々が知ったのも一ヶ月を過ぎた頃でした。ただ、先生が熱心に参加されていた地元の絵画サークルのみなさんの協力により、暖かな会であったと聞いています。

先生は、昭和15年芝浦にあった東京高等工芸学校をご卒業、トヨタ自動車に入社、主として自動車の車体の設計およびデザインの仕事に従事されました。このときのトヨタ自動車での活躍ご苦労は、先生自身の著書でもある「トヨタのデザインとともに（山海堂）」に詳しく書かれています。あらためて読み返してみると、戦後の日本の自動車産業の発展とともに歩んだ険しい道のりが淡々と書かれているところに、かえって先生のお人柄を感じることができます。

その後、デザイン実務から教育研究へ活躍の場を移されて、昭和48年から東北工業大学教授、昭和52年千葉大学教授をへて、昭和62年からは拓殖大学の教授を勤められました。この間に、数多くの優秀な人材をデザイン界に送り出しました。

拓殖大学退職後は、あまりデザイン界と関わりをもつことなく、悠々自適の生活をおくられ、大好きな絵画を描くことに熱中されておられました。

先生は、決してご自分を前面に出し、ご自身のお考えを下のものに強いることはありませんでした。その結果、下につくものは、自由に自分の考えを推し進めることができました。きっと、このことがトヨタデザインを発展させ、大学では優秀な人材を輩出することになる大きな要因ではないかと推察します。

しかし、平成15年に AXIS Gallery を使って開かれた森本眞佐男「自

動車のレンダリング展」では、キャンソンペーパーの上にパステル、色鉛筆で描かれた、1958年アメリカのアートセンタースクール留学時（日本人で同校へ留学した中ではごく初期）のものから近年新たに描いた作品まで多数出展され、そのご健勝ぶりに驚かされるばかりでした。

先生のデザイン実務上の業績は、日本の自動車デザインを黎明期から支え、先駆者としてずっと先頭を走ってこられ、大小数え上げれば切りがありません。「トヨタのデザインとともに」には、シド・ミードとの交流や今でも採用のために行われている春の実習を始めたときのこと、デザインの現場にコンピュータを導入したいきさつなど、今となっては当たり前になっていることの端緒が数多くあり、先生の手ひらの上からまだ抜け出していない自分に気がつき愕然とする次第です。

ここでは、先生の業績の中から拓殖大学時代に伺った、手ひらの大きさを示すエピソードを2つご紹介したいと思います。

先生は、常にパッケージ（基本レイアウトといくつかの車体寸法）の重要性を説かれていました。そこで、パッケージの基準になる国土交通省が定めた5ナンバー、3ナンバーという日本独自の税法上の枠組みは、大変よくできており、海外の車は必ず3ナンバーになってしまうまいしくみであることを指摘しました。役人には、こういうことを考えられる頭のよい人がいるものだと思心すると、先生はぼつりと「役所はそのようなデータを持っていないので、相談を受けたとき私が提案した」とお話しくださいました。この枠組みは、当時の日本の自動車事情や日本の生活などを考慮した結果と推察されますが、ある時期まで輸入車をすべて3ナンバーにしてしまう輸入障壁の役割を果たし、また様々な社会インフラを考える上での重要な基準寸法を決めたことになり、大変なお仕事ですねと言うと、「そうかな」と相変わらず欲のないお返事でした。

また、研究の一環で統計的な手法、具体的には多変量解析を使い始めたときに、つたないデザインの実務経験から「実務ではこういう解析はやらないのでは……」と愚痴をもらしたところ、これは「それはデザイナーの頭の中でやっていることだから」というお答えが返ってきました。このとき、先生は戦前からデザイン実務に関わり、多くの経験をなされてきましたが、非常に客観的にご自身のなされてきたことを見ていることに感服するとともに、デザインを研究することと実務というのはこういう線引きがなされなければならないことが理解できて、その後のデザイン研究の足がかりをつかんだような気がしました。

最後に、大学を退職後、デザインと距離を置くようになったことについて、これまでご自身が積み上げてきたことが正しかったのか疑問に思うとふともらされたのを聞いて、先生を含め先達が築き上げてきたデザインとその教育研究の土壌の上に立つ我々にとって、それが正しかったことを証明しながらさらに発展させていくことが大きな使命であることを痛感しました。

先生のご冥福を心からお祈りするとともに、ここまで育てていただいたことに感謝の意を表したいと思います。

第61回春季研究発表大会会告—2

日程：2014年7月4日（金）～6日（日）

会場：7月4日（金）AOSSA（JR 福井駅より徒歩すぐ）

7月5日（土）、7月6日（日）福井工業大学 福井キャンパス（福井県福井市）

開催までの主要日程：

発表申込期間 3月1日～3月31日

概要集原稿投稿期間 3月1日～3月31日

事前参加登録期間 5月1日～5月31日

大会プログラムなど詳細は、幹事校 Web サイトが開設されていますので、ご確認ください。

<http://www.fukui-ut.ac.jp/ut/des/jssd2014/>

なお、宿泊申し込みは、幹事校 Web サイトの「アクセス・宿泊」→「宿泊について」→「宿泊予約サイト」にアクセスしていただき、各位で手配していただきますよう、お願いいたします。その他、お問い合わせにつきましては、jssd2014@fukui-ut.ac.jp までお願いいたします。

しあわせデザイン

日本デザイン学会
第61回春季研究発表大会
The 61st Annual Conference of JSSD
Fukui University of Technology

日本デザイン学会
第61回春季研究発表大会
幹事校サイト

61回大会概要
発表・参加申込
研究発表
基調講演
セッション・企画
アクセス・宿泊
企業展示
お問い合わせ

基調講演、セッション・企画ページを公開しました
大会初日に行われる、基調講演の内容を記載したページと、各セッションや企画などを掲載するページを公開しました。各セッション内容の詳細が決まり次第、随時情報が追加されます。各ページへのアクセスは、左側メニュー「基調講演」「セッション・企画」からご確認ください。

宿泊について
宿泊施設は近畿日本ツーリストを通じて大会実行委員会が会場アクセスに便利なホテルを十分な数確保しております。予約方法は現在近畿日本ツーリストと検討中です。

各種詳細ページを公開しました
大会概要、アクセス・宿泊について、発表・参加の申込などのページを公開しました。各詳細は左側のボタンより確認してください。

幹事校サイトを立ち上げました
2014年7月4,5,6日に福井工業大学で行われる日本デザイン学会第61回春季研究発表大会の幹事校サイトです。スケジュールや内容などはこのサイトに随時掲載されます。

JSSD 日本デザイン学会 福井工業大学
Fukui University of Technology

献本御礼

◆機関誌

TAMABI News 63, 2013, 多摩美術大学

TAMABI News 64, 2014, 多摩美術大学

Creative Spiral vol.7 January, 2014, 東京造形大学／専門学校 桑沢デザイン研究所

◆報告書

長野県工業技術総合センター研究報告 No.8, 2013, 長野県工業技術総合センター

勝井三雄 1954-2013, 勝井三雄, 2014, 公益財団法人 DNP 文化振興財団

◆寄贈図書

Fearless Change アジャイルに効く アイディアを組織に広めるための48パターン, Mary Lynn Manns, Linda Rising 著・川口恭伸 監訳, 丸善出版株式会社

メンタルモデル ユーザーへの共感から生まれる UX デザイン戦略, Indy Young 著・田村大 監訳, 2014, 丸善出版
朝倉実線心理学講座3 デザインと色彩の心理学, 海保博之・日比野治雄・小山慎一 編, 2013, 朝倉書店

◆展覧会図録

向井周太郎 世界プロセスとしての身振り, 2013, 武蔵野美術大学 美術館・図書館

募集案内

第48回造本装幀コンクール作品募集のご案内

作品募集要項

出品料：1点当たり 5,000 円

出品作品：2013（平成25）年1月1日から12月31日までに発行された書籍

募集期間：2014（平成26）年1月31日（金）～3月31日（月）

応募締切：2014年3月31日（月）

お問い合わせ先：

（一財）出版文化産業振興財団（JPIC）内

造本装幀コンクール事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-12-3

Tel: 03(5211)7282 Fax: 03(5211)7285

E-mail: info@jpica.or.jp

Design シンポジウム 2014 講演募集

会期：2014 年 11 月 11 日（火）～ 13 日（木）

会場：東京大学 生産技術研究所 総合研究実験棟（An 棟）コンベンションホール他
（東京都目黒区駒場 4-6-1）

共催：日本設計工学会（幹事学会）、日本機械学会、精密工学会、日本建築学会、日本デザイン学会、人工知能学会

協賛：The Design Society、横断型基幹科学技術研究団体連合、International Association of Societies of Design Research（予定）

趣旨：

現在、人々の生活、社会、産業、環境を取り巻く問題は高度化、複合化しており、縦割りの専門分野ごとのアプローチでは対応が困難となっています。そのため、複数の専門分野が横断的に連携し、問題の分析（analysis）に加えて、問題を解決する新たなモノやコトの総合（synthesis）を行なう、設計、デザインの研究、教育が、非常に重要となっています。

以上の背景から、日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、日本デザイン学会の 5 学会は、「設計」や「デザイン」を包含する上位概念としての” design”を対象としたシンポジウムを 2004 年 7 月に開催、その後、人工知能学会を加えた 6 学会共催による隔年の Design シンポジウムを、多様な参加者による活発な議論の場として継続的に開催してきました。この度、10 周年を迎える Design シンポジウム 2014 を,” design”に関して分野横断的、学術的、実践的に取り組む場として、次の通り企画いたしました。

- ・一般講演
 - ・分野のキーパーソンによる特別講演
 - ・Design シンポジウムのこれまでとこれからを議論する 10 周年パネルディスカッション
 - ・Dyson Engineering Lecture & Workshop（Design シンポジウム Version）： Design シンポジウムの特長を活かし、機械系、建築系、デザイン系、情報系の分野を横断する学生チームが、ダイソン英国本社エンジニアの指導の下、議論、創案、試作、発表を行い、デザインのプロセスを体験する、ジェームズダイソン財団の協力によるワークショップ
- 様々な分野の研究者、設計者、デザイナー、技術者、学生など、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

一般講演募集：

発表形式は口頭発表もしくはポスター発表を基本としますが、申込件数等により発表形式のご希望にそえない場合もございますので、あらかじめご了承下さい。また、一般講演の採否、プログラム編成は Design シンポジウム 2014 運営委員会にご一任下さい。

一般講演申込方法：

申込は電子メールで受け付けます。Subject 名を「Design シンポジウム 2014 一般講演申込」とし、(i) 題目、(ii) 登壇者（*印）・連名者の氏名、共催学会員の方は学会名・会員資格、(iii) 所属機関名・所在地、(iv) 連絡先氏名・住所・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレス、(v) 講演内容に該当する、表 1 の (a)～(f) 中の 1～2 個、表 2 の (1)～(40) 中の 3 個程度を、それぞれ記載、(vi) 希望する発表形式（口頭発表、ポスター発表）、を記載した電子メールに、A4 判で 2 頁以上（図表等含む）の発表概要を PDF ファイルにて添付して下さい。

表 1 一般講演の枠組み

項目	説明
(a) Design 理論	Design 理論は、Design 行為におけるさまざまな現象を説明可能な法則やモデルである。Design 理論は、Design 上の目的を持たず、純粋に Design 行為に関わる。例えば、数式を用いて Design 行為を表現した一般設計学に関する研究などがこれにあたる。しかし、例えば、最適デザインは、デザイン目標を最良にするという目的を持つため、これにあたらない。
(b) Design 方法論	Design 方法論は、Design 方法の特徴分析やそれに基づく Design 方法の選択指針の構築など、複数の Design 方法の関係性に着目し、それらを体系的に扱うものである。例えば、デザイン問題の特徴に基づく最適デザイン法の使い分けに関する研究などがこれにあたる。
(c) Design 方法	Design 方法は、Design 上の目的を達成するためのさまざまな方法のことである。例えば、デザインに用いられる各種の発想法や分析法、あるいはパターンランゲージのように、Design プロセスに注目する方法などがこれにあたる。
(d) Design 実践	Design 実務は、プロダクトデザイン、建築デザイン、工学設計など、多様なデザイン分野における具体的な実践である。例えば、製品開発事例やデザイン作品に関する記録や報告などがこれにあたる。
(e) Design 知識	Design 知識は、Design 行為に用いられる（関与する）知識である。例えば、Design 実務に関する知識のデータベースや、それらのマネジメント・技術伝承に関する知識などがこれにあたる。
(f) その他	（上述した）Design 行為に関与しないさまざまな知識である。例えば、Design 教育、Design 史、Design と他分野・他領域（社会・政策・文化・哲学など）の関わりに関する知識などがこれにあたる。

(1) 設計工学・製品開発事例
(2) システム工学・システムデザイン
(3) 感性工学・感性デザイン
(4) サービス工学・サービスデザイン
(5) 設計科学 (デザインサイエンス)
(6) 認知科学・デザイン心理学
(7) 期待学
(8) 記号論
(9) プロダクトデザイン・マテリアルデザイン
(10) ファッションデザイン
(11) グラフィックデザイン
(12) 情報デザイン
(13) メディアデザイン
(14) コミュニケーションデザイン
(15) コラボレーション・インタラクティブデザイン
(16) ソーシャルデザイン・コミュニティデザイン
(17) ワークプレイスデザイン
(18) インターフェースデザイン
(19) 空間デザイン
(20) 建築・都市・ランドスケープデザイン

(21) ライフサイクルデザイン
(22) セキュリティデザイン
(23) ユニバーサルデザイン・エルゴノミクスデザイン
(24) ユーザビリティ
(25) 複合領域最適設計・ロバストデザイン
(26) 最適デザイン
(27) 創発デザイン
(28) メタデザイン
(29) タイムアクシスデザイン
(30) 仕掛けデザイン
(31) エコデザイン
(32) Design 思考
(33) 発想・創造支援・イノベーション
(34) 情報管理・ナレッジマネジメント
(35) Design プロセス
(36) 設計場・設計環境・設計組織・設計主体
(37) DfX 方法論・DfX ツール
(38) CAD/CAM/CAE・デジタルエンジニアリング
(39) 学びと教育
(40) Design と社会、政策、文化、歴史、哲学、価値・評価

表2 一般講演のキーワード

ワークショップ参加申込方法：

学生を対象とし、参加は無料です。申込は電子メールで受け付けます。Subject 名を「Design シンポジウム 2014 ワークショップ参加申込」とし、(i) 参加希望者氏名（複数連名可）、所属（学校、専攻・学科）、専門分野、学年、(ii) 代表連絡者氏名・所属・住所・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレス、(iii) 各参加希望者について、Design シンポジウム 2014 一般講演登壇者・連名者、共催学会員などに該当する場合は、その情報、を記載した電子メールをお送りください。

一般講演申込や会員資格をワークショップ参加条件とはしませんが、希望者が定員（50 名）を超過した場合は、一般講演登壇者・連名者、共催学会員を優先する場合がありますので、ご了承ください。連名の参加申込の場合も、採否は個人ごとに決定します。

申込宛先：ds2014@mail.design.t.u-tokyo.ac.jp

申込期限：2014 年 6 月 6 日（金）

採否通知：

Design シンポジウム 2014 運営委員会にて申込内容を審査のうえ、2014 年 7 月 18 日頃に通知いたします。

最終原稿：

採択された一般講演は、Design シンポジウム 2014 運営委員会の指定した書式に従い、原則として A4 判 4 枚（ただし最大 8 枚まで可能）の最終原稿を PDF でご提出いただきます。

最終原稿提出期限：2014 年 9 月 12 日（金）

一般	共催学会員		10,000 円	論文集 1 部含む
	非会員		13,000 円	
学生	登壇者	共催学会員	5,000 円	論文集なし
		非会員	13,000 円	
	聴講のみ		無料	

なお、懇親会を開催する予定です。懇親会参加費は、参加登録者（聴講のみの学生は除く）は無料の予定です。

Web ページ：

シンポジウムの詳細は、日本設計工学会ホームページ（<http://www.jsde.or.jp/>）上に掲載しますのでご覧下さい

問合せ先：

村上 存（Design シンポジウム 2014 運営委員会委員長）
 東京大学 大学院工学系研究科 機械工学専攻
 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
 E-mail: ds2014@mail.design.t.u-tokyo.ac.jp
 Tel: 03-5841-6327 Fax: 03-3818-0835

催し物

バルテュス展

- ◆会期：2014年4月19日（土）～6月22日（日）
- ◆会場：東京都美術館 企画展示室
〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36
- ◆開室時間：9:30～17:30（金曜は20:00）、入室は閉室の30分前まで
- ◆休室日：月曜日、5月7日（水）
（ただし4月28日（月）、5月5日（月・祝）は開室）
- ◆主催：東京都美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）
NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
- ◆後援：スイス大使館、フランス大使館
- ◆お問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）

開山・栄西禅師 800 年遠忌 特別展「栄西と建仁寺」

- ◆会期：2014年3月25日（火）～2014年5月18日（日）
- ◆会場：東京国立博物館 平成館（上野公園）
- ◆開館時間：9:30～17:00（入館は閉館の30分前まで）
（ただし、会期中の金曜日は20:00まで、土・日・祝休日は18:00まで開館）
- ◆休館日：月曜日
（ただし4月28日（月）、5月5日（月・祝）は開館、5月7日（水）は休館）
- ◆主催：東京国立博物館、建仁寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
- ◆お問合せ：03-5777-8600（ハローダイヤル）

自動引き落とし手続きのお願い

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。また、口座引き落とし依頼書がお手元にない方は、本部事務局へご請求ください。

本部事務局

会員の移動

◆平成25年度第六回理事会承認 2013.12.15

新入会

正会員 5名（内外国人1名）

梅田 悟司 大内 エキオ

小林 茂雄 鶴田 香

WOO JEONG HAN

学生会員 7名（内外国人2名）

石崎 日菜子 大矢知 良

平 翔 田中 恵

松野 大希 李 奎皇

Imam Damar Djati

退会

正会員 7名

阿部 靖子 岩倉 信弥

織田 芳人 菅 靖子

服部 等作 山崎 真由美

山本 匡人

◆平成25年度第七回理事会承認 2014.02.01

入会

正会員 11名（内外国人7名）

木下 哲人 中坊 壮介

畠山 洋祐 松村 真宏

沈 ケイ 郭 郁伶

許 子凡 柯 凱仁

張 妃滿 侯 純純

傅 銘傳

学生会員 6名（内外国人4名）

櫻井 祐輔 鳥居 秀作

金 民赫 熊 娜

SLAMET RIYADI

陳 麗萍

退会

正会員 4名

網本 義弘 飯島 祥二

坂下 仁志 高橋 正広

学生会員 2名（内1名外国人）

諏訪部 真 彭 春栄

訃報 ご冥福をお祈りいたします。

3地区 柳瀬 徹夫

4地区 吉本 一夫

4地区 大林 誠

2地区 村口 峯子（敬称略）